

AHP 法の適用事例 - 就職活動における企業選択 -

～Application experience of Analytic Hierarchy Process～

- Corporate selection in job hunting -

1.はじめに

今回は、今までの就職活動で受験してきた企業について、AHP 法を用いて解析した。その結果を報告する。

- ・C社…ワクチンの開発，製造。財団法人。香川県。
- ・D社…通信インフラの設備会社。本社は東京。
- ・E社…地元金融機関。香川県。

2.基準・代替案の選定

まず、選択対象の候補(代替案)と、その選択をするときの評価基準を決める。今回は、評価基準を「資本金」「給与」「福利厚生」「仕事内容」「所在地」の5つとした。代替案は、「A社」「B社」「C社」「D社」「E社」とした。

それらを階層図で表したものが(図 1.)である。

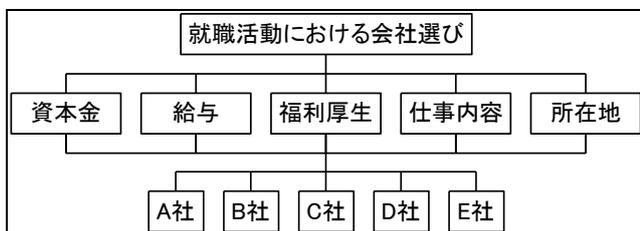


図 1. 階層図

3.評価基準間の一対比較

どの評価基準をどのくらい重要視しているかを求める。(図 2.)のようなアンケート表を用いてそれぞれの評価基準のどちらをどれくらい重要視するかを回答。

	左の項目が圧倒的に重要	左の項目がかなり重要	左の項目がうんと重要	左の項目が少し重要	左右同じくらい重要	右の項目が少し重要	右の項目がかなり重要	右の項目がうんと重要	右の項目が圧倒的に重要
	9	8	7	6	5	4	3	2	1
資本金									
給与									
福利厚生									
仕事内容									
所在地									
資本金							1		
給与								1	
福利厚生									1
仕事内容									
所在地									
資本金									
給与									
福利厚生									
仕事内容									
所在地									

図 2. アンケート表(基準間の一対比較)

評価基準は以下のように定める。

- ・資本金…多ければ多いほど、よいとする。
- ・給与…多ければ多いほど、よいとする。初任給。
- ・福利厚生…多ければ多いほど、よいとする。
- ・仕事内容…自分の専攻に近ければ近いほど、よいとする。
- ・所在地…実家から本社までの距離が近ければ近いほど、よいとする。

いずれも、リクナビ 2011 の企業情報のページを参考とする。

代替案の簡単な説明は以下である。

- ・A社…地元電力会社。香川県。
- ・B社…A社の子会社。香川県。

4.各基準の重要度の計算

(図 2.)の一対比較の回答をもとに、各基準の重要度を求める。今回の結果をグラフにすると、(図 3.)のようになった。

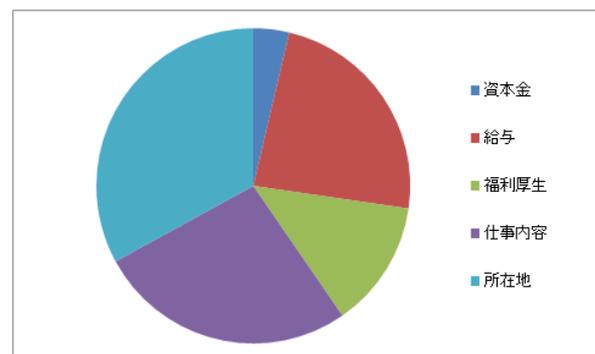


図 3. 各基準の重要度のグラフ

5.各基準に関して、代替案間の一対比較と評価値の計算

評価基準間の一対比較と同様に、評価基準ごとに、代替案間の一対比較を行う。「資本金」について、代替案間の一対比較を行って、評価値をグラフ化したものが(図 4.)である。その他の評価基準についても、同様に評価値を求める。

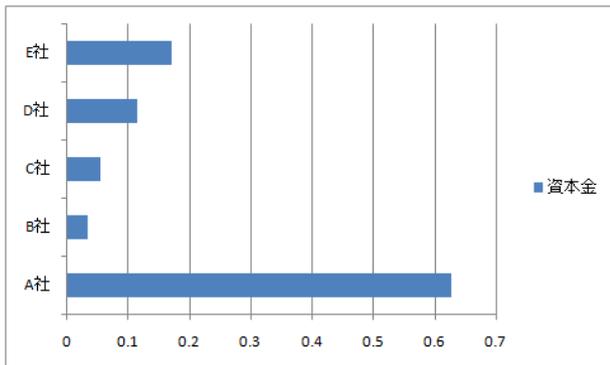


図 4「資本金」に関する評価値

6.総合化とグラフ化

それぞれの評価値を、各評価基準の重要度を重みにした、加重平均を求める。その結果をグラフ化したものを以下に示す。(図 5.)

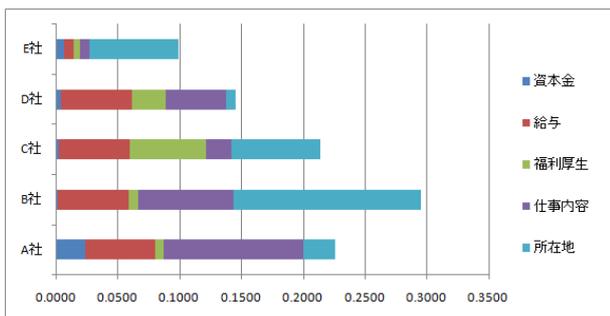


図 5. 総合化のグラフ

7.結果について

今回は、AHP を用いて解析したが、B 社がベストな選択候補である、という結果になった。今回は評価基準の「所在地」が最も重要視されていたためこのような結果になったが、他の人にアンケートを行ってもらいと、また別の結果が生じるであろう。

8.おわりに

今回、AHP を用いて会社選択を行ったが、自分がイメージしていた結果とは少し異なっていた。改善すべきだ、と感じたことを以下に挙げる。

- ・会社の規模を評価するために設けた「資本金」は、業種によっても大きく異なる。よって、規模を評価するための基準は「売上高」や「従業員数」が適当ではないか。
- ・給与に関してはどの企業も大した差はないので、他の基準に変更してもよいのではないか。
- ・アンケートの結果(特に代替案間の一対比較)は C.I.(整合度)が低くなりがちで、矛盾が生じることがある。整合度が下がると一対比較のやり直しが推奨されているが、必ずしも間違っているわけではないので、アンケート結果を解析するのは非常に難しくなりそうである。

参考文献

- [1] 高萩 栄一郎 中島 信之 共著,
“Excel で学ぶ AHP 入門” 2005/09.(オーム社)